

吉田拓郎が大学生が中心だった広島フォーク村で、アイドル的な人気を誇ったのが修道高(広島市中区)の3人組「ブルックス」だった。制服姿でギターとベースを弾き、若々しいハーマニーで女性観客を魅了。彼らは後年、浜田省吾らとバンド「愛奴」としてデビューすることとなる。

ブルックスは、クラスメートだった町支寛二と高橋信彦、山崎貴生が修道中2年の時に結成した。山崎は今、劉哲志の名で活動する。放課後の階段でビートルズを歌ったのが始まりだった。今あるライブハウスのような演奏の場所はなく、廿日市の盆踊りに出演させてもらった記憶がある」と高橋は笑う。

修道高に進学後、フォーク村のコンサートに出演するようになり、たちまち人気者に。1970年にフォーク村が出した自主レコード「古い船をいま動かせるのは古い水夫じゃないだろう」にも唯一の高校生バンドとして参加し、オリジナルナンバー「波よけさないで」が収録された。

その頃、呉市の三津田高ではフォークソング同好会が結成され、浜田も参加。浜田は、呉から修道高に通っていた町支と幼なじみを通じて知り合う。70年3月には呉市民会館でフォーク村「呉支部」の旗揚げコンサートを開き、裏方を担った。「なんて素晴らしいハーマニー

広島フォーク村50年

① 拓郎と「愛奴」

音楽界に才能と活力

「なんだろうと感激した」。浜12月に広島市青少年センターはブルックスを初めて聴いた(中区)で開かれた2周年記念時の記憶を、フォーク村50年の「満二歳 帰郷」。1人で舞懇親会に寄せたメッセージにしたためた。

ク村の仲間だった青山徹を加え、た5人で72年に「愛奴」を結成。吉田のバックバンドに抜てきされた後、75年にメジャーデビューを果たす。浜田の脱退を経て、解散するが、浜田は日本の音楽シーンを代表するシンガー・ソングライターとなった。

町支は浜田の音楽に欠かせない。町支は浜田の音楽に欠かせない。



広島フォーク村の思い出を語る高橋信彦(右)と町支寛二(撮影・浜岡学)

浜田省吾もゆかり

68年から2年半、フォーク村の支柱として、広島若者を熱気の渦に巻き込んだ吉田。インタビュを申し込むとメールでなら」と返信が来た。連載の締めくくりに、「拓郎らしさあふれる原文のまま掲載する。50年前のフォーク村はどういう存在ですか。僕にとってはフォークソングというよりも女の子たちとの交流の場としての存在だった。当時の大学生なんてそんなものです。

吉田拓郎コメント

「あのころの自分をどう思いますか。まったくモテなかったなあ」とつくづく思います。

「フォーク村の仲間はどういう存在でしょう。当時は大きげに言えば3つくらいのグループに分かれていて、僕は僕のギター教室にいた学生たちしか仲間だったとはいえないかな。

「フォーク村にまつわる記憶で最も印象に残っていることは。僕が参加したフォーク村の夏休み合宿がありました。そこで先輩から毎晩「男と女」についてのレッスンを受けた事は忘れられない青春になりました。



吉田拓郎

敬称略 (西村文)